

放流時の アユ冷水病対策の ポイント!

●放流時期及び放流場所の決定



- 1 河川水量や餌となる付着藻類、水温の状況等を継続的に記録し、これらを参考に放流時期、放流場所、放流回数、放流量の決定を行う。

アユに適した自然環境を見極めて放流しましょう



- 2 河川が増水している時や濁っている時、又は濁ることが予想される時の放流は避ける。



もうすこし様子を見るか

- 3 河川の水温が低い時期は、種苗の放流は避け、河川の日間最低水温が13°C以上となる時期を放流の目安とする。

●放流種苗の選択及び取り扱い



- 1 事前に放流種苗の供給先まで行って、購入予定アユの健康状態を確認する。



- 2 放流現場に到着した時点で、輸送水槽の種苗の中に、一部でも冷水病の発症又は冷水病が疑われる症状が認められた場合は、そのまま放流せず、速やかに診断を受ける。



- 3 放流直前に、衰弱したアユ、死亡したアユ等が見られた場合は、速やかに取り除く。

冷水病の発生防止には
水ぎわチェックが大切です!

- 4 取り除いた衰弱したアユ、死亡したアユは、河川に投棄せず、焼却・埋却等によって処理する。



- 5 種苗の受入れに際しては、来歴カードによってアユの履歴をチェックする(10ページ参照)。また、来歴カードには放流記録を残す。